

》商工会議所活用レシピ

FILE | 31

異業種交流で商品を開発 研究会で生まれた絆は財産です



株式会社シナノ
代表取締役会長
柳澤 光臣 さん

弊社のこれまでの経営を一言で振り返ると「ポール技術でウォーキングライフを支えて65年」と表すことができます。スキーのストックから始まり、トレッキングやウォーキングのポール、さらに高齢者向けの補助杖まで、人々の生活を豊かにするさまざまなポール（杖）の開発・製造・販売を行ってきました。

そしてその傍ら、本業だけでは出会えない、いろいろな職業・立場の人と交流できる商工会議所の活動にも積極的に参加してきました。その中で、医・農を含む多分野にわたる事業者が集まり、学・官とも連携の上、共に新たな商品の開発に意欲を燃やす「佐久ものづくり研究会」にも入会しました。

が最初に選んだのは健康・医療・介護分野を担当する「楽笑」です。初代リーダーとして、その名の通り、どうせやるなら楽しく活動できるようにと、仲間同士の交流を深めることを考えて取り組みを進めてきました。

新たな商品を生み出すというのは、簡単にできることではありません。しかし、この会にはさまざまな経験を積んできた経営者たちが同じ志を持って集まっています。力を合わせることで、「1+1」が2ではなく、5にも10にもなるのです。また、学・官の皆さんの力で、これはさらに倍加されています。研究会に配置されたアドバイザーも、その橋渡し役として大きな助けになっています。

福祉分野で活躍する医療法人がメンバーに加わっていることです。そして、その医療法人から113ものニーズを聞き取り、それを分析・検討して商品化を進めてきました。すでに5品目を実際に売り出しています。

弊社が担当したものは、手と腕の2点で支える歩行用補助杖と、リハビリにも効果的なウォーキング用ポールです。仲間の医療・介護関係者に試用してもらい製作したので、実用的な商品となっています。商工会議所には、これを広く知ってもらうきっかけとしてヘルスツーリズム事業も提案してもらいました。

これからも商工会議所を活用し、いろいろな人たちと接点を持ち、常に前に向かって挑戦したいと考えています。

担当者からひと言



佐久商工会議所
(長野県)
総務課 主任
磯貝 智哉

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

佐久ものづくり研究会を創設したのは、平成16年のことです。不況が続く中、一企業では難しいことでも、企業同士が交流したり、切磋琢磨したりしながら実現に結び付けてもらいたいとスタート。以来、チャレンジ精神旺盛な柳澤会長は、リーダーの一人として研究会を引っ張り、数々の製品の誕生に携わってきてくれました。

現在の研究会には、医療・建築、サービス、情報、住宅設備、自動車などの幅広い分野から42事業者の参加があり、活発な議論が展開されています。今後も、地域の事業者の皆さんが活動を通して連携を強め、相乗効果でよい結果を生み出していくことを期待しています。